

土砂移動履歴調査

・雷鳥沢キャンプ場～下流側地獄谷北側の称名川狭窄部間に、火山噴出物を主体とした泥流状の堆積物が分布しているのが認められた。この泥流状の堆積物は、弥陀ヶ原火山から噴出した、第4テフラ～第3テフラ起源と想定される火山灰が、周辺の溶岩や火山砕屑物、雄山山麓に分布する氷河性堆積物を巻き込んで流下、堆積したものである（※1）。

・泥流・土石流堆積物には2つの堆積構造が認められる。

①堆積構造の乱れた、土石流・泥流の状態での堆積痕跡→これは、噴火後に土石流化した、あるいは噴火に伴い融雪などで泥流化し堆積した物であり、地獄谷の出口付近や称名川狭窄部付近で見られる。

②サラサラと静かに流れて貯まった証である、級化構造が認められる堆積物→これは、流水や通常の降雨により貯まった物であるが、還元環境下で堆積したと想定されるシルト粘土層（ヘドロ状の堆積物）が層状に認められることから、河道閉塞等による湛水の影響で形成された堆積物と想定される。

